

栽培管理日誌は必ず記入し、出荷にあたっては必ず提出しましょう。

◎農薬の安全使用基準を守って正しく使いましょう!!

◎良質米づくりの基本は土づくりから!!

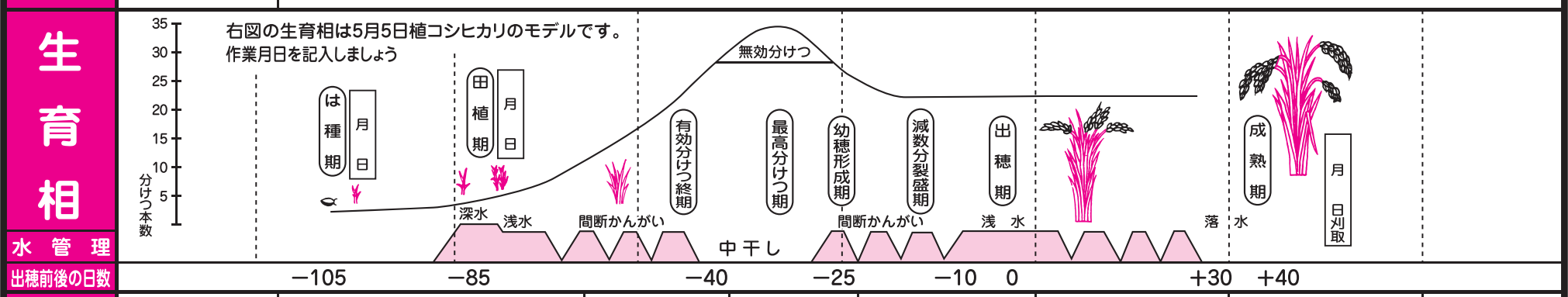
◎お米はJAへ!! ◎農作業中の事故のないように注意しましょう!!

◆JA米について◆ JAグループ広島では、平成19年産米から安全・安心を基本とした『JA米』に全面的に取り組んでいます。JA米とは、3つの要件を満たし、かつJA米以外のお米と区別して、契約・検査・集荷・販売されるお米です。
* ★JA米の3つの要件★ 1. 毎年の種子更新又は育苗センターで購入した苗。 2. 検査機関で検査されたお米。 3. 栽培履歴及び自己点検チェックシートの記載されたお米。*

育苗の手順

塩水選	水洗い	消毒	風乾	浸種	催芽	播種	育苗管理
不良みを除去する。 水20ℓに対し 食塩 うるち 4.2kg もち 1.08 うるち 1.13 生卵による 比重液の調整 もち 2.3kg うるち 2.3kg	塩分を落とす。	水20ℓに対し ばか苗病他 テクリドCフロアブル 100ml(200倍) 心枯線虫 スミチオン乳剤 20ml(1000倍) 24時間浸漬	水洗いせず1日程度 陰干しし、もみの表面 が白くなるまで乾かして 消毒剤をよく付着させる。	必ず停滯水で行い、 水量は種もみ量の 4倍量で行う。 最初の2日間は水 交換しない。 水の交換は静かに行う。 水の温度は10℃以上	30℃の温度でハト胸 状態に催芽する。 正しいハト胸 1mm	播種量(1箱当り) 苗の種類(葉数) 催芽もみ 乾燥もみ換算 種苗(2.2~2.5葉) 160~180g 130~145g 水10ℓに対し カビ・苗立枯病予防 ナエファインフロアブル10ml (1000倍) 20箱分 播種直後立枯 カビ防止 0.5ℓ/箱	育苗器使用の場合 発芽温度28~30℃ 2~3日間とする。 (温度管理に十分留意する) 緑化・硬化期 ハウス・トンネルの 換気を十分に、 過湿にしない。

時期	10~3			4			5			6			7			8			9			10	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育のめやす	コシヒカリ			田植-20日 播種			出穂-85日 出穂-79日 田植 追肥①			出穂-40日 追肥②			出穂-18日 出穂-10日 田植+85~90日 穂肥① 穂肥② 出穂			出穂+40日 成熟期							
	コシヒカリ			田植-20日 播種			出穂-81日 出穂-74日 田植 追肥①			出穂-40日 追肥②			出穂-18日 出穂-10日 田植+80~85日 穂肥① 穂肥② 出穂			出穂+40日 成熟期							
	つきあかり			田植-20日 播種			出穂-78日 出穂-68日 田植 追肥①			出穂-40日 追肥②			出穂-24日 出穂-10日 田植+75~80日 穂肥① 穂肥② 出穂			出穂+40日~45日 成熟期							
	あきさかり			田植-20日 播種			出穂-90日 田植 追肥①			出穂-70日 追肥②			出穂-40日 出穂-24日 出穂-10日 田植+90~95日 追肥② 穂肥① 穂肥② 出穂			出穂+40日~45日 成熟期							



主な作業

品名	田植時期	栽培密度(株/坪)
コシヒカリ	5月上旬	37~55
	5月中旬	45~60
	5月下旬	50~60
品名	田植時期	栽培密度(株/坪)
つきあかり	5月上旬	50~60
あきさかり	5月中旬	40~50

※基肥は、代かき前に施用して下さい。
※代かきは、ねりすぎないように注意しましょう。
※播付け本数は3~5本、播付け深さは2~3cmを目安にしてください。
※除草剤は適期に使用し、水管理に注意して下さい。

土づくり肥料施用例 (10a当りkg)

肥料名	施用量(10a当り)	備考
牛ふん堆肥	700~1,000kg	春先までにすぎ込む。
ミネラルG	100~200kg	ごま葉枯病の発生する秋落田。
ミネラルPK	60~100kg	L型肥料で不足しがちな、リン酸と加里を補給。

稲わら腐熟促進資材 (10a当りkg)

資材名	施用量	効果
わらゴールド	30~60kg	セルロース分解菌により、稲わらの腐熟を促進。
石灰窒素	20kg	石灰のアルカリ効果と窒素で分解を促進。
アクリン酸アブ(濃縮酵素液)	100ml	土壌環境の影響を受けにくい、酵素による稲わら分解促進剤。

箱処理剤 (圃場にあったものをいずれか一つ選択)

ウンカ・紋枯病対策

は種時~移植当日

スクラム箱粒剤

いもち病・紋枯病・ウンカ類・コブノメイガイネドコロイムシ・イネニメソウムシ 他
50g/箱 (月 日)

稲こうじ病対策

移植3日前~移植当日

サンエース箱粒剤

いもち病・紋枯病・稲こうじ病・ウンカ類・コブノメイガイネドコロイムシ・イネニメソウムシ 他
50g/箱 (月 日)

ウンカ対策

は種時~移植当日

防人箱粒剤

いもち病・ウンカ類・コブノメイガイネドコロイムシ・イネニメソウムシ 他
50g/箱 (月 日)

※田植えが5月下旬以降の場合、いもち病対策として「Dr.オリゼリディア箱粒剤」の使用を推奨します。

液剤体系

出穂前7~5日	収穫7日前まで	出穂後5~7日	収穫7日前まで
<h4>ビームエイトスタークルゾル</h4> <p>いもち病・ウンカ類・カメムシ類 他 1,000倍 150ℓ/10a (月 日)</p>		<h4>ブレードスタークルRゾル</h4> <p>いもち病・ウンカ類・カメムシ類 1,000倍 150ℓ/10a (月 日)</p>	

※マルチローター防除については、「省力・低コスト暦」をご参照ください。

粉剤体系

出穂前7~5日	収穫14日前まで	出穂後5~7日	収穫7日前まで
<h4>ビームバシボン粉剤DL</h4> <p>いもち病・紋枯病・ウンカ類・コブノメイガイ・カメムシ類・イナゴ類 他 3~4kg/10a (月 日)</p>		<h4>ブレードスタークル粉剤DL</h4> <p>いもち病・ウンカ類・カメムシ類 他 3~4kg/10a (月 日)</p>	

除草剤使用基準

日数: 代かき -7日, 田植 +0日, +5日, +10日, +15日, +20日, +25日

※体系処理は①か②のどちらかで行なってください。

初期剤処理 (移植前)	初期剤処理 (移植後)	体系処理剤適期
初期剤処理(移植前) (移植7日前まで) サキドリEW クリアホーフフロアブル(薬対策) 先陣ジャンボ/1キロ粒剤(薬対策)	初期剤処理(移植後) ※登録内容を確認の上、使用して下さい。 ※除草剤使用後7日間は、落水や掛け流しを行わないでください。 ※軟弱田の移植田、極端な浅植え、田植後の深水田、砂質土で漏水の大きい水田は、薬害が出やすいため注意が必要です。	体系処理剤適期

一発処理適期: 田植 +3日

品名	粒剤	フロアブル	ジャンボ
ジェイフレンド	移植時 移植直後~	移植後5日~	移植後5日~
アシュラ	移植時 移植直後~	移植直後~	移植直後~
ゼータタイガー	移植時 移植直後~	移植後3日~	移植後3日~

中後期 (発生に応じて使用)

藻類・ウキクサ対策	ヒエが残った場合	ヒエ以外の雑草が残った場合
<h4>モゲトン粒剤</h4> <p>(月 日) 2~3kg/10a 発生初期(収穫45日前まで) ※湛水散布 3回まで</p>	<h4>トドメMF1キロ粒剤</h4> <p>(月 日) 1kg/10a 移植後14日~ノビエ5葉期(収穫50日前まで) ※湛水散布 3回まで</p>	<h4>トドメMF乳剤</h4> <p>(月 日) 200ml/10a(水100ℓに溶かす) 移植後14日~ノビエ7葉期(収穫50日前まで) ※湛水散布 又は落水散布 2回まで</p>

コナギ対策	ヒエおよび広葉雑草が残った場合
<h4>ウィードコア1キロ粒剤</h4> <p>(月 日) 1kg/10a 移植後7日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで) ※湛水散布 2回まで</p>	<h4>レプラス1キロ粒剤</h4> <p>(月 日) 1kg/10a 移植後14日~ノビエ4葉期(収穫60日前まで) ※湛水散布 1回まで</p>

施肥設計例

kg/10a	品名	土づくり資材(月 日)	施肥体系	基肥(月 日)	追肥①(月 日)	追肥②(月 日)	穂肥①(月 日)	穂肥②(月 日)
コシヒカリ	ミネラルG 苦土重焼燐	100kg 20kg	分施肥型	い~ね403改	20kg	い~ね403改	5kg	
			分施肥型(ベースト施肥)	ネオベースト2号	25kg			
			一発型	早生い~ね755	30kg			
つきあかり	ミネラルPK	60kg	一発型	多収米専用一発(早生)	35~40kg			
			分施肥型	い~ね403改	50kg	い~ね403改	10kg	
あきさかり	ミネラルG 苦土重焼燐	100kg 20kg	分施肥型	い~ね403改	35kg	い~ね403改	15kg	
			分施肥型(ベースト施肥)	ネオベースト1号	40kg			
			一発型	JBあきさかり502	40kg			

※昨年倒伏が激しかった圃場や、堆肥を1,000kg以上施用した圃場では、肥料の施用量を1割~2割程度減らして下さい。 ※農薬内容はR6.10月末現在の登録情報を参考に作成しています。無断転載禁止!